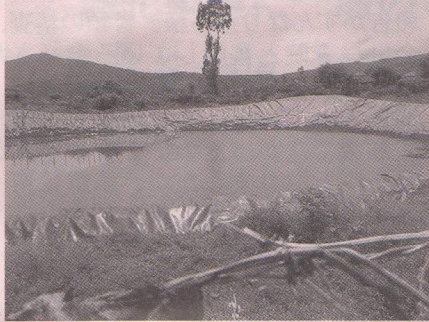


7月に苗木生産規模 10万本目標

エチオピア里山事業報告

住民自らの実施へ向け指導へ

帰国 報告者 水野 昭憲



1. 日程：10月6日(日)出発、10月19日(土)帰国
2. 出張者：水野、仕館の2名
3. 面談先：JICAエチオピア事務所、所轄税務署、小学校、県経済企画局

4. 重要な活動報告

(1) ため池：2月にハイエナにより損傷した裂け目が完全に修繕されていなかったこと、並びにそれ以外にも損傷箇所がある可能性があり、水漏れが発生。

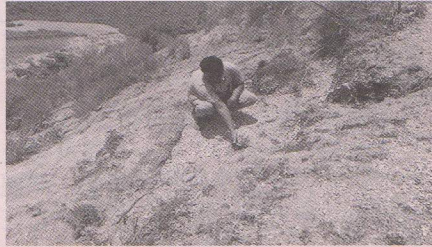
今年は雨量が多かったにも拘らず、貯水量は寡少。

⇒ため池の修繕(金額不明)、水の購入(きたる小雨期に雨が無く11月から6月までの8か月間購入すると144,000ブル(約58万円))が必要。

⇒水が完全になくなら、ため池の修繕が必要。修繕方法とそのメリ・デメリを検討中。

(3) 1年余りに植林した苗木の活着率を調査：結果は30%強。

(4) 小学校の環境教育：学校側と、



先生及び環境クラブ部員高学年(5年生から8年生)に対する研修、並びに環境クラブ部員高学年を対象にした絵画コンテストを実施する方向で仮合意

⇒当会として、12月以降、先生への研修からスタートし、4月に絵画コンテストを実施。同様のことを学校の年度替わり(毎年西暦9月)にも実施することを決定。

(5) 植林計画：2020年7月の苗木生産規模10万本を目標に、2019年11月に種を購入し、苗畑活動開始。樹種は在来種10種程度。来年は、11月に、2021年7月の苗木生産規模6万本を目標に苗畑活動開始予定。なお、2021年にできる苗木の植樹は、事業終了後であるため、同年7月の国家緑化キャンペーン時に、住民自らが実施する方向で指導予定(詳細別紙：「樹種の選定201910」)。

⇒当会として、11月から作業開始を決定。

(6) 予算変更：上記(1)、(2)、(4)及び(5)等を考慮した変更予算案を策定したが、下記(7)の問題があり、県の経済企画局等への予算変更の申請は断念。本予算変更案は、当会本部及び現地における予算管理に利用すると共に、事業終了時における監査対応に活用する予定。

(7) 県の経済企画局：予算変更の申請期限は、2018年10月までであり、時間切れ。期限の延長を行えば、それに合わせて予算の変更も可能とのことだが、最終期限は2024年10月以降になる。JICA北陸センターからの大幅な予算の増額が必要になるほか、当会内において担当者がいなくなるという問題があり、実務上困難。



⇒県の経済企画局等との接触は時間の無駄と思われ、今後、計画書の変更等の協議をしないことを検討中。

(8) JICAエチオピア：2021年4月の事業終了時を見据えた頭出しを実施(先方アドバイスは、①スタッフの退職金、②機材の引き渡し、③事業終了後の管理がよく問題になるとのこと)、及び前述の接触を断つことにより県の経済企画局等監督当局との関係が悪化した場合に発生等した過去事例を照会済み。

当会ホームページを作らせて戴いたのが平成7年でした。2度目の作成は平成29年4月、作成に必要な写真を戴き、作成中に是非1度はアラシャン砂漠と植林作業風景及び緑で覆われた緑化地を見たい、見ないと皆様方に見て戴ける様なホームページが仕上がらないと思い、9月に会長と共に8日間の日程でアラシャンを訪れました。

初日は甘肅省武威市で開催される、中国緑化基金会と国連砂漠対処条



新理事紹介

河崎 由紀子さん



約が共催の世界30カ国300名が参加する、砂漠植林者世界会議に出席しました。全体会議では大澤会長の活動報告と分科会、最終日には中国緑化基金会と包む会が、今後、一対一路計画の砂漠地帯で、緑化・環境教育を通じた活動を、双方が持つノウハウを活かしながら協力し合う協議書を締結調印する場に立ち会いさせて戴きました。

世界会議終了後はアラシャンまで500kmの道のりを車で移動しました。アラシャンには3日間滞在し、緑化された地域を見て回り、緑に

覆われている砂漠に、本当に緑になっているのだと驚きました。現地スタッフの方々と共に、花棒を20本植える体験もさせていただきました。懇親会で初めていただいた52度の強い白酒、羊肉はとてもおいしかったです。

会長が呉向榮さんと出会い、20年間かけ緑化事業を展開された凄みを実感しました。中国、砂漠、全て初体験でしたので、よそでは味わえない貴重な体験をさせて頂いたと思っています。他の方にもこの緑化地を是非見ていただき、体験して欲しいとも思いました。

今後はこの体験を、自分のできる範疇になりますが、できる限り協力していきたいと思っております。